

## 「乗務労働の特殊性」の形骸化反対！ 安全第一の職場の構築を目指す6・8運車分会集会



235名を超える  
組合員が結集！

6/8 サンパール荒川・小ホール

東京地本は6月8日、サンパール荒川において「乗務労働の特殊性」の形骸化反対！安全第一の職場の構築を目指す6・8運車分会集会を、235名を超える組合員の参加で開催しました。そして、会社より新たに提案された「乗務員勤務制度」の問題点や本質を見抜き、今後のたたかひの方向性について意思統一を図りました。

5月17日、本部は会社より「乗務員勤務制度の見直しについて」の提案を受けました。会社は26年間運用されてきた制度を見直す目的として、「多様な働き方と効率性」の実現を図り、業務改革や生産性の向上をもとに人口減少社会に伴う急速な社会・経済構造の変化等に対応していくことを示しています。

そして提案以降、運車職場は示された提案の内容から見る将来の職場における運用や乗務労働の特殊性について内容を深めるために、全分会で職場集会を開催し、全組合員で真正面から向き合い職場から議論をつくり出してきました。

今回の運車分会集会では、この間の職場からのたたかひについて発言があり「乗務労働の特殊性を形骸化している」「安全と働きがいとは向上しない制度だ」「育児介護勤務適用者は会社を辞めるしかないのか。現実を加味していない」「指導員が乗務することで不在になり、仕事上の不安のことが聞けなくなる」「支社企画部門が乗務すると言うが、乗務員の仕事は簡単なものでなく片手間で作るものではない。人の命を預かっている仕事だ」「会社は説明をするが質問に答えられず、組合員は呆れ返っている」「会社の説明には安全の言葉が一切ない」「労働組合だからこそみんなで議論ができるし、たたかうこともできる」など、多くの組合員からの怒りと疑問、不安の声が紹介されると共に、労働組合と非組合員との違いについて発言がありました。そして、組合員の声に基づいて基本要件をつくり上げ、組合員の納得感が得られる乗務員職場をつくり出していくために、職場からのたたかひを強化していく決意の発言もありました。

会社の提案内容では「多様な働き方と効率性」を前面に押し出しており、将来の乗務員職場は大きく劇的に変化していきます。また、組合員の率直な意見にある通り乗務労働の特殊性は形骸化され、専門性が薄められていきます。そのためにも乗務労働の特殊性は「移動労働」であり、一人ひとりが明確にしていくことが重要です。そして「安全・健康・ゆとり・働きがい」を実感し、安全第一で乗務労働の特殊性を重視され、組合員への納得感・平等感・安心感・透明感を得られる乗務員職場を構築していかなくてはなりません。

激変する環境と社会の変化の中であっても、経営のチェック機能を発揮し、労働組合の役割を果たしていくことが必要です。乗務労働の特殊性を堅持した輸送サービスの提供ができる制度の実現に向けて、全職場から議論を巻き起こし、たたかひを強化していこう。